

---

# 私の日常

あや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私の日常

### 【Zコード】

N7823Y

### 【作者名】

あや

### 【あらすじ】

中学校に入った女子4人の生活を書いた物語。どんどん中学校生活にも慣れていき、新たな生活が始まる。

## 中学校生活

『これで、入学式を終わります。』新1年生が、吹奏楽部の演奏に合わせて退場していく。みんなは、自分のクラスに戻つていった。今日から私達は、中学生になつた。小学校のころからも人数が多くつたけど、中学校は5つの小学校が合わさつているから更に人数が多くなつた。

幼稚園から仲が良かつた親友とは、うまい具合にクラスが分かれた。1組に、れいなとあい。3組に、ゆうらとあゆ。この4人は、昔からの付き合い。れいなとゆうらは、双子の姉妹。家の敷地には、家とお城がある。そのお城の王様はれいなとゆうらの父、お姫様は母、としてお城を築き上げている。つまり、れいなとゆうらは社長令嬢だ。

4人は、付属小学校出身。5つの小学校の中で2番目に頭がいい学校だ。入学するときに、お受験して合格しないと入れない。4人は、家がみんな近かつたから一緒に通いたいとゆうことでお受験したら、見事に合格した。

『ねえーゅうーー!』突然、あゆがゆうらに話しかけてきた。

『さつき、れなとあいの教室行つたら…ゆうらに会いたいって言つとする男子おつたよー!』ゆうらは、男子とか興味がないほうで特になにも考えずに会いに行つてみることにした。

『あーーーー!』ゆうらは、あいに会うまづが優先だった。『きーたーぞーー!』すると、あこもあゆと同じことを言つた。『ゆうら、あの

眼鏡の男子どう思つ?』いきなりの質問に、ゆうらは『ええ……まあ……いい人そりやけど……なんで?』するとあいが、『なんか、あたしらの』と小学校の『』から知つとるらしくて。ずっと探しとつたらし!』ゆうらが、『ええ~なんか……氣をつけたほうがよくない?』探しどつたとか……危ないカンジする。』そこに、れいなが入ってきた。『あつ、ゆらやーあの男子の話聞いた?』ゆうらは、『ああ~まあ……ちょっと危なそうに見える人やろ?』するといなが『それがね!……せんぜん危なくないん!!さつき話してみたら、すごいいい人やつたん!なんか……共通点あるとか。』あいとゆうらが、『はあ!??意味分からんし!最近知り合つたばかりなんに、共通点なんかあるわけないやんか!!』れいなが、『それがね……あるんよ。今、あゆおらんから言うけど……うちら3人さ、1回大人に襲われたやんか?そのときに飲まれた液体みたいなやつ、あの男子も飲ませたつて。』あいが『えつつ!/?まぢで!/?あの男子の症状は、うちらと一緒になん?』れいなが『うちらは、貧血とかだけやけど……あの男子はしばらく入院しとらんなんかつたぐらいに、やばかつたみたいよ。頭殴られて、意識もすぐ戻らんだみたいで。』ゆうらが『まぢかよ……結構身近にあるもんなんやね……ってことは、あの男子も薬飲んどるん?』れいなが『そうそう。同じやつやわ。』ゆうらが、『そうかあ……』と言つて、チラッとその男子を見たときには田が合つてしまつた。その男子は、仲がいいもう1人の男子と一緒に3人のほうへと近づいてきた。そしてその男子が『どうも初めまして。僕は、杖月裕輔といいます。』こつちは、昔からの友達の津沢瑞季。』みずきが、『よろしく!』と言つた。

あいが『あつ、えつと……』の口がさつき会いたがつとつたゆうら。あゆは……今は来とらん。』ゆうすけが『おお~この口が大道優羽菜ちゃんか!大道怜依那ちゃんと名字一緒なんやね!』女子3人が、ドン引きした。

ゆうらが『れなとゆらは双子やからね。顔似とらんから分からんかもね。』ゆうすけが『あつ!双子やつたんか!…ごめんね。気づか

んだ…。『れいなとゆうらが『ああ～ぜんぜんいいよーー初対面の人に一発で双子つて分かつてもらつたことないんよ。おもしろいよ』。』

などと喋っていると、授業の始まりのチャイムが鳴った。ゆうらは3組やから、走って戻つていった。

そして帰り。

小学校のときのように、4人で帰つた。家も近いし。4人は、これからも楽しくやつていけそうとか話していた。

みんな家に無事到着。

## 中学校生活

『これで、入学式を終わります。』新1年生が、吹奏楽部の演奏に合わせて退場していく。みんなは、自分のクラスに戻つていった。今日から私達は、中学生になつた。小学校のころからも人数が多くつたけど、中学校は5つの小学校が合わさつているから更に人数が多くなつた。

幼稚園から仲が良かつた親友とは、うまい具合にクラスが分かれた。1組に、れいなとあい。3組に、ゆうらとあゆ。この4人は、昔からの付き合い。れいなとゆうらは、双子の姉妹。家の敷地には、家とお城がある。そのお城の王様はれいなとゆうらの父、お姫様は母、としてお城を築き上げている。つまり、れいなとゆうらは社長令嬢だ。

4人は、付属小学校出身。5つの小学校の中で2番目に頭がいい学校だ。入学するときに、お受験して合格しないと入れない。4人は、家がみんな近かつたから一緒に通いたいとゆうことでお受験したら、見事に合格した。

『ねえーゅうーー!』突然、あゆがゆうらに話しかけてきた。

『さつき、れなとあいの教室行つたら…ゆうらに会いたいって言つとする男子おつたよー』ゆうらは、男子とか興味がないほうで特になにも考えずに会いに行つてみることにした。

『あーーーー!』ゆうらは、あいに会うまづが優先だった。『きーたーぞーー!』すると、あこもあゆと同じことを言つた。『ゆうら、あの

眼鏡の男子どう思つ?』『いきなりの質問に、ゆうらは『ええ…んまあ…いい人そりやけど…。なんで?』するとあいが、『なんか、あたしらの』こと小学校の『ころから知つとるらしくて。ずっと探しとつたらし!』ゆうらが、『ええ…なんか…氣をつけたほうがよくない?』探しどつたとか…。危ないカンジする。』そこに、れいなが入ってきた。『あつ、ゆらやーあの男子の話聞いた?』ゆうらは、『ああーまあ…ちょっと危なそうに見える人やろ?』するといなが『それがね!…せんぜん危なくないん!!さつき話してみたら、すごいいい人やつたん!なんか…共通点あるとか。』あいとゆうらが、『はあ!…?意味分からんし!最近知り合つたばかりなんに、共通点なんかあるわけないやんか!!』れいなが、『それがね…あるんよ。今、あゆおらんから言うけど…うちら3人さ、1回大人に襲われたやんか?そのときに飲まれた液体みたいなやつ、あの男子も飲ませたつて。』あいが『えつ…?まぢで!…あの男子の症状は、うちらと一緒に…一緒なん?』れいなが『うちらは、貧血とかだけやけど…あの男子はしばらく入院しとらんなんかつたぐらいに、やばかつたみたいよ。頭殴られて、意識もすぐ戻らんだみたいで。』ゆうらが『まぢかよ…結構身近にあるもんなんやね…ってことは、あの男子も薬飲んどるん?』れいなが『そうそう。同じやつやわ。』ゆうらが、『そうかあ…。』と言つて、チラッとその男子を見たときには田が合つてしまつた。その男子は、仲がいいもう1人の男子と一緒に3人のほうへと近づいてきた。そしてその男子が『どうも初めまして。僕は、杖月裕輔といいます。こつちは、昔からの友達の津沢瑞季。』みずきが、『よろしく!』と言つた。

あいが『あつ、えつと…』の口がさつき会いたがつとつたゆうら。あゆは…今は来とらん。』ゆうすけが『おおーこの口が大道優羽菜ちゃんか!大道怜依那ちゃんと名字一緒になんやね!』女子3人が、ドン引きした。

ゆうらが『れなとゆらは双子やからね。顔似とらんから分からんかもね。』ゆうすけが『あつ!双子やつたんか!…ごめんね。気づか

んだ…。『れいなとゆうらが『ああ～ぜんぜんいにょーー初対面の人に一発で双子って分かつてもらつたことないんよ。おもしろいよ』。』

などと喋っていると、授業の始まりのチャイムが鳴った。ゆうらは3組やから、走つて戻つていった。

そして帰り。

小学校のときのように、4人で帰つた。家も近いし。4人は、これからも楽しくやつていけそうとか話していた。

みんな家に無事到着。『れなとゆうら帰つて来たあー。学校どうやつたん?』帰つていきなり話しかけてきたのは、あや。れいなとゆうらの妹だ。れいなとゆうらは、7人姉妹。れいなとゆうらの2つ上に、高校2年生の真奈美まなみ、1つ下に小学6年生の愛弥乃あやの、3つ下に小学4年生の紺輝莉ひかり、5つ下に小学2年生の実紗冬みわい、11つ下に2歳の紺愛弥あやといった大家族だ。

れいなとゆうらは、あやの質問に『楽しかつたよー。』と答えた。あの、ゆうすけと仲良くできるかは心配だ。あいから聞いたが、出身は第一小学校らしい。5つの小学校の中で1番頭がいい学校。第一小学校も、入学するときにお受験して合格しないと入れない。付属小学校よりもレベルが高い。第一小学校の卒業生は、受験して遠くにある頭がいい学校に行く人も多いみたいだ。でも、ゆうすけとみずきは近いほうに来たらしい。

とにかく、明日からも仲良くしていこう。

『ねえあゆー。中学校どうやつた?』そのころあゆの家でも、同じ会話が続いていた。あゆに話しかけたのは、妹のあみちゃん。れいなとゆうらの妹のひかりと同じ、4年生だ。付属小学校に通っている。

あゆはあみちゃんの質問に、『そーやなー。やらと同じクラスになつたから楽しいよ。』あみちゃんが、『ああ～ひかりちゃんのお姉ちゃんか！～いいな～。あみ、ひかりちゃんと同じクラスになれんよお。出席番号も遠いしな…。』あゆ・あみの名字は、吉川。れいな・ゆうらは大道で、『お』と『よ』やからとおい。あゆは、『ええ～同じクラスなつたことないん！？確かに出席番号は遠いね。』と言つた。こちらも仲良く話している様子。

そしてこの家は。

『あい。中学校どうやつた？』聞いてきたのは姉のみかと妹のはる。姉のみかさんは大学生で一人暮らしをしているが、春休みということで遊びに来ている。妹のはるちゃんは、れいな・ゆうらの妹のみまと同じ2年生だ。みかさんとはるちゃんの質問にあいは『ああ～楽しいよ…。』ちょっとそつけない返事をした。姉は、気を使つてもう何も言わないでくれたが、妹のはるちゃんはもっと喋つてほしかつたのか、『ねえねえ！！いろんなこと教えてよー！』と言つた。あいは、『だから乐しかつたつて言つとるやん！！ちょっと静かにしてよ！』とケンカになつてしまつた。あいは、機嫌がいいと優しいが、機嫌が悪いとケンカになる。妹にだけだが。

そして、みんなの1日が無事終わつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7823y/>

---

私の日常

2011年11月23日13時50分発行